

薬のチェック

No. 92

Vol. 20

Nov. 2020

92号（2020年11月発行）の記事要旨と参考文献

参考文献はアクセスが容易になるように、できる限りネットへのリンクをつけたものにしていきます（特にPubMed アブストラクトへリンクできるように）

インフルエンザ 予防にゾフルーザは危険 効力の証拠なく、耐性化率は非常に高い

COVID-19 ワクチン候補の効力と安全性は？ 新製法で神経障害が高頻度

目次

Editorial		総説	
『アマチュアリズム』	123	ガイドライン批判シリーズ (16) パーキンソン病：早期の治療開始は認知症を招く 利益と害とのバランスで個別に選択を	136
New Products		連載	
インフルエンザ予防にゾフルーザは危険 エビデンスはなく、耐性ウイルスが高率に出現	124	コーヒー無礼区	131
COVID-19		本誌のこだわり用語 「Intervention と介入」	132
ワクチン候補の効力と安全性は？ 新製法の候補ですでに神経障害が高頻度	127	医師国家試験に挑戦しよう（問題）	133
害反応		患者用くすりの説明書 パーキンソン病用標準薬剤	140
2型糖尿病用経口血糖降下剤 エンバグリフロジン（SGLT-2 阻害剤） フランスでは販売見込みなし	132	医薬品危険性情報あれこれ	141
番外編		医師国家試験に挑戦しよう（正解と解説）	143
抗凝固剤 DOAC に血栓形成が多いのはなぜか	134	Others	
		FORUM 小学生のマスク着用は本当に必要？	142
		検査で見つからない潜在がんとは？	143
		書評 「白い病」	142
		次号予告／編集後記	144

表紙のことば：もみの木のクリスマスツリーが、冬の帰り道を華やかに照らしていました。

編集部 から

病院薬剤師が主人公のテレビドラマ「アンサンブル・シンデレラ」が本年7月より放送されました。賛否両論あるかと思いますが、薬剤師という職業にスポットライトが当たり、普段は医療とはあまり関わりのない方にも、薬剤の有効性や有害性、薬剤師の存在意義などについて考えていただくよい機会となったと思います。ドラマなので多少の演出はありますが、薬剤師の使命は、患者に寄り添い、適切な薬物療法を提案していくことであり、それを体現するべく奮闘する主人公の姿勢は、ある意味で薬剤師の理想形に近いのかもしれない。

本誌では、ガイドラインの批判をシリーズ化しています。ガイドラインは、臨床試験などの科学的根拠に基づいて、最適と考えられる治療の推奨を示す文書です。しかし、臨床試験の結果の解釈は、ときに難しいこともあります。ある薬剤がガイドラインで推奨されていても、その根拠となった臨床試験の対象患者の特徴と、実際に目の前にいる患者の特徴が異なれば、臨床試験では良好な治療成績だったとしても、その患者には有効でない可能性があります。臨床ではガイドラインはとても重要なツールですが、その限界を知ることにもまた重要です。ガイドラインで推奨されている薬剤が、目の前の患者にも有効で安全かどうか考え、患者に寄り添っていききたいものです。

COVID-19 関連記事をはじめ、専門用語があちこちに出てきます。次年度は何らかの工夫をしたいと思案しております。読者のみなさまからのアイデア歓迎です。

p123 Editorial 『アマチュアリズム』

Free https://www.npoijp.org/chk_tip/92-Editorial.pdf

p124-126

New Products

インフルエンザ予防にゾフルーザは危険 エビデンスはなく、耐性ウイルスが高率に出現

薬のチェック編集委員会

まとめ

- 抗インフルエンザ剤ゾフルーザ（一般名パロキサビル）の予防試験の論文では、検査陽性で発熱などインフルエンザ症状のある例はゾフルーザ群で顕著に少なく、予防に有効と報告されましたが、果たして、そうなのかを検討しました。
- ゾフルーザを服用すると、ウイルスが存在していても検査ではウイルスが検出されなくなります。そのため、予防として服用した後に感染し、実はウイルスが存在していても症状が出て、検査では陰性になるためインフルエンザではないと判断されます。
- こうした検査陰性の有症状者が多数いるはずですが、論文では報告されておらず、真の予防効果は不明です。
- ウイルス検出者の3割が耐性化しました。予防内服は、治りにくい耐性ウイルス蔓延の原因となるため危険です。

結論：予防効果の証拠なく、害のみ。絶対に使わないように

キーワード：：パロキサビル、タミフル、ランダム化比較試験、耐性変異、検査陰性有症状者

参考文献

- 1) 薬のチェック編集委員会、新規インフルエンザ用剤ゾフルーザ：価値無し、薬のチェック、2018：18(80)：132-133.
- 2) 同、抗インフルエンザ剤ゾフルーザによる出血、薬のチェック 2019：19(83)：56-57.
- 3) 浜六郎、抗インフルエンザ剤ゾフルーザの害、薬のチェック 2019：19(86)：131-132.
- 4) 浜六郎、タミフルもゾフルーザも死亡の危険度が大きい、薬のチェック 2020：20(87)：13.
- 5) Ikematsu H, Hayden FG, Kawaguchi K et al. Baloxavir Marboxil for Prophylaxis against Influenza in Household Contacts. *N Engl J Med.* 2020 Jul 23;383(4):309-320 Epub 2020 Jul 8. PMID: 32640124
- 6) Jefferson T et al. Neuraminidase inhibitors for preventing and treating influenza in adults and children. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2014, Issue 4. Art. No.: CD008965, PMID:24718923
- 7) 柏木征三郎、工藤翔二、渡辺彰、吉村功、リン酸オセルタミビルのインフルエンザ発症抑制効果に関する検討—プラセボを対照とした第Ⅲ相二重盲検並行群間比較試験成績—、感染症学雑誌、2000：74(12)：1062-1076.
- 8) 浜六郎、オセルタミビル（タミフル）はインフルエンザ予防に無効、TIP、2005：20(2)：18-20.
- 9) 浜六郎、インフルエンザ予防にタミフルは無効、薬のチェックは命のチェック、2005：5（No12:改訂増補版）：35-38.
- 10) ゾフルーザ、申請資料概要（臨床） <https://www.pmda.go.jp/drugs/2018/P20180312001/index.html>

p127-131

COVID-19 情報

COVID-19 ワクチン候補の効力と安全性は？ 新製法の候補ですでに神経障害が高頻度

薬のチェック編集委員会

まとめ

- COVID-19 用に新たな製法を含めて開発中のワクチン候補は 200 種類以上あり、第 3 相試験も進行中です。
- サルなど動物を用いた感染実験では、感染防御はできませんでしたが、血中に抗体ができて重症化はおおむね防止できていました。ただし、長期効果は不明です。
- 公表されている臨床試験は第 2 相試験までで、血中抗体の上昇と有害事象を 2 か月程度観察しただけであり、実際に感染を防止するのか、重症化を防止するのか、抗体上昇が長期に持続するののかは、全く不明です。
- あるワクチン候補の臨床試験中に横断性脊髄炎または多発性硬化症が 2 人報告されました。神経障害はワクチンにつきものですが、罹患率を推定すると 10 万人年あたり 120 人ときわめて高率です。これは、特に新規のワクチン候補の製法と密接にかかわっている可能性が高く、大いに因果関係があると考えべきです。

結論：予防効果の証拠はまだない 高頻度の神経障害の可能性大 慎重な見極めが必須

キーワード：サブユニット、不活化、RNA、DNA、ウイルスペクター、ワクチン候補、アジュバント、横断性脊髄炎、多発性硬化症

記事は Free です https://www.npojip.org/chk_tip/No92-f05.pdf また Free の Web 資料があります。

Web 資料図 SARS-CoV-2 とワクチン候補の構造概略図 https://www.npojip.org/chk_tip/No92-f06.pdf

Web 資料表 1: ワクチン候補の種類と代表的製剤 https://www.npojip.org/chk_tip/No92-f07.xlsx

Web 資料表 2: 臨床試験報告のあるワクチン候補一覧 https://www.npojip.org/chk_tip/No92-f08.xlsx

参考文献

- 1) Vaccine Center at the london School of Hygiene & Tropical Medicine, COVID-19 vaccine tracker https://vac-lshtm.shinyapps.io/ncov_vaccine_landscape/#
- 2) FDA News release, First FDA-approved vaccine for the prevention of Ebola virus disease, marking a critical milestone in public health preparedness and response <https://www.fda.gov/news-events/press-announcements/first-fda-approved-vaccine-prevention-ebola-virus-disease-marking-critical-mile>

[stone-public-health](#)

- 3) EMA Press release: New vaccine for prevention of Ebola virus disease recommended for approval in the European Union <https://www.ema.europa.eu/en/news/new-vaccine-prevention-ebola-virus-disease-recommended-approval-european-union>
- 4) Redding L, Weiner DB DNA vaccines in veterinary use. *Expert Rev Vaccines*. 2009 Sep;8(9):1251-76. PMID: 19722897
- 5) Doremalen N, Lambe T, Spencer A et al. ChAdOx1 nCoV-19 vaccination prevents SARS-CoV-2 pneumonia in rhesus macaques bioRxiv preprint doi: <https://doi.org/10.1101/2020.05.13.093195>.
- 6) Wu S, Zhong G, Zhang J et al. [A single dose of an adenovirus-vectored vaccine provides protection against SARS-CoV-2 challenge](#). *Nat Commun*. 2020 Aug 14;11(1):4081. PMID: 32796842
- 7) Zhu FC, Li YH, Guan XH et al. [Safety, tolerability, and immunogenicity of a recombinant adenovirus type-5 vectored COVID-19 vaccine: a dose-escalation, open-label, non-randomised, first-in-human trial](#). *Lancet*. 2020 Jun 13;395(10240):1845-1854. Epub 2020 May 22. PMID: 32450106
- 8) Zhu FC, Guan XH, Li YH et al. [Immunogenicity and safety of a recombinant adenovirus type-5-vectored COVID-19 vaccine in healthy adults aged 18 years or older: a randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 2 trial](#). *Lancet*. 2020 Aug 15;396(10249):479-488. Epub 2020 Jul 20. PMID: 32702299
- 9) アストラゼネカ社 ChAdOx1 nCoV-19 第3相試験 (米国) <https://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT04516746>
- 10) ヤンセン社、Ad26.CoV.S 第3相試験 (米国) <https://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT04505722>
- 11) カンシノ社 (中国) Ad5-nCoV 第3相試験 (パキスタン) <https://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT04526990>
- 12) Folegatti PM, Ewer KJ, Aley PK et al. [Safety and immunogenicity of the ChAdOx1 nCoV-19 vaccine against SARS-CoV-2: a preliminary report of a phase 1/2, single-blind, randomised controlled trial](#). *Lancet*. 2020 Aug 15;396(10249):467-478. PMID: 32702298
- 13) Nature News. COVID-vaccine results are on the way-and scientists' concerns are growing <https://www.nature.com/articles/d41586-020-02706-6>
- 14) NewYork Times. AstraZeneca, Under Fire for Vaccine Safety, Releases Trial Blueprints 2020/9/11 <https://www.nytimes.com/2020/09/19/health/astrazeneca-vaccine-safety-blueprints.html>
- 15) 多発性硬化症/視神経脊髄炎、難病情報センター <https://www.nanbyou.or.jp/entry/3807>
- 16) 浜六郎、HPV ワクチンは中止を、薬のチェックは命のチェック、2013;13(52):29-43.
- 17) 浜六郎、谷田憲俊、HPV ワクチン接種後の自己免疫疾患罹患のリスク分析、TIP 誌 2013;28(5):89-99.
- 18) 多発性硬化症罹患率、世界各国の比較、総説を探るか、なければ、浜六郎の私信とする。
- 19) 石井健、“アラムアジュバント効果に宿主細胞の DNA による自然免疫が鍵を握る” http://www.ifrec.osaka-u.ac.jp/jpn/research/upload_img/Ken%20Ishii_Nat%20Medicine%20%E8%A7%A3%E8%AA%AC.pdf
- 20) 浜六郎、アジュバントの正体と HPV ワクチンを徹底解剖する、同、2014;14(53):47-67.
- 21) Liu MA. [A Comparison of Plasmid DNA and mRNA as Vaccine Technologies](#). *Vaccines (Basel)*. 2019 Apr 24;7(2):37. PMID: 31022829
- 22) Ulrich H, Pillat MM, Tárnok A. *Cytometry A*. Dengue Fever, COVID-19 (SARS-CoV-2), and Antibody-Dependent Enhancement (ADE): A Perspective. *Cytometry A* 2020 Jul;97(7):662-667. Epub 2020 Jun 7. PMID: 32506725
- 23) Krammer F. [SARS-CoV-2 vaccines in development](#). *Nature*. 2020 Sep 23. doi: 10.1038/s41586-020-2798-3. PMID: 32967006
- 24) 中西剛明、浜六郎、ファビピラビル (アビガン)、薬のチェック、2020 : 20 (90) : 80-82.
- 25) Reuters 2020/10/13, <https://jp.reuters.com/article/uk-health-coronavirus-johnson-johnson/ji-pauses-covid-19-vaccine-trials-due-to-unexplained-illness-in-participant-idUKKBN26Y02L>
- 26) Reuters 2020/10/14 <https://jp.reuters.com/article/us-health-coronavirus-eli-lilly/eli-lilly-pauses-trial-of-antibody-drug-trump-touted-as-covid-19-cure-over-safety-concern-idUSKBN26Y2TE>

害反応

2型糖尿病用経口血糖降下剤

エンパグリフロジン (SGLT-2 阻害剤) : フランスでは販売見込みなし

Prescrire International March 2020 Vol.29 No.213 Page71 より翻訳、補足は本誌

カナグリフロジンやダパグリフロジン、エンパグリフロジンなどグリフロジン剤 (SGLT-2 阻害剤) は、多くのヨーロッパ諸国では2型糖尿病用に販売されている経口血糖降下剤であるが、2019年11月4日現在、フランスでは販売されていない [1,2]。

薬のチェックの解説

評価：薬剤に値しない欠陥物質

本誌では、57号 (2015年1月) の New Products で SGLT-2 阻害剤を、薬剤に値しない欠陥物質 どのような毒物がなぜ「くすり」なのかと結論しました。その後も何度も取り上げています (58, 68, 74, 81号)。

参考文献

- 1) European Commission “SPC-Jardiance” 14 February 2019: 28pages.
- 2) HAS-Commission de la transparence “Avis-Jardiance” 27 February 2019: 47pages.
- 3) “Gliflozines” Interactions Medicamenteuses Prescrire 2019.
- 4) Gliflozins:necrotising fasciitis of the penneum” Prescrire Int 2019;28(206):181.
- 5) “Type 2 diabetes. Cardiovascular assessment of dapagliflozin: no advance” Prescrire Int 2019; 29 (211) :23.

p132

本誌のこだわり用語 ⑥

Intervention と 介入

Intervention の日本語訳として「介入」という用語が診療や介護・福祉の現場で多用されていることに違和感をもつ人は少なくない。

米国の研究被験者保護ガイドライン「ベルモント・レポート、1979年」では「診療 (practice) とは、個々の患者の利益を目指して行われる成功が見込まれる intervention」である。つまり、診療における intervention では個々の患者の利益が最優先される。一方、同レポートでは、「研究 (research)」とは、「仮説を検証し、その結果を用いて一般化する知識を得る行為である。」とある。つまり、その際に行われる intervention は、患者の利益は尊重しつつも、それは最優先ではなく、あくまで設定した仮説の検証が主目的である。

intervention の動詞形である intervene の語源を探ると、inter (=between 間に) + vene (=to come 来る) である。また、intervention を Merriam-Webster

辞書で引いて訳すと「害が起こるのを防止する、あるいは機能を改善する目的で、ある状態または自然の経過を妨害 (interfere) する行為」とある。本来 intervention は、「よいことをする目的で、自然の経過を変えること」と言えそうである (その結果失敗に終わることもあるとしても)。

一方、日本語の「介入」という言葉から受けるイメージは、かなり悪い。どちらかというところ、「介入を受ける人の利益とは無関係に (あるいは反して) 自然の経過を変える」とさえ感じられる。その意味では、「介入」は、研究における intervention の訳語として使うにとどめたい。通常の診療や介護・福祉の分野では「介入」は用いず、その場にあった「予防」「治療」「処置」「手術」「支援」「援助」「働きかけ」などを使うようにしたい。ただし、十分な証拠から害が判明している療法を「診療」で用いる行為に対しては、あえて「介入」を用いることは許されよう。

医師国家試験に挑戦しよう！

木元 康介

2020年に行われた第114回医師国家試験から出題します。

害反応 <<番外編>>

抗凝固剤 DOAC に血栓形成が多いのはなぜか

直接作用型経口抗凝固剤 (DOAC : direct oral anticoagulants) に関する本誌 88、91 号の記事に対し、読者から質問と要望がありました。害反応に関連する記事としてここに取り上げて解説します。(薬のチェック編集委員会)

質問 : DOAC が APS に対して血栓を起こしやすい理由は、薬物動態や薬理作用から説明は可能でしょうか。また、APS だけでなく、非弁膜症性心房細動に用いた場合にも共通していることではないのでしょうか。

要望 : ISDB で DOAC の批判的な吟味を深めていただきたいと要望します。

- DOAC とワルファリンの作用の違い
- APS が血栓を起こしやすい理由
- 凝固系・抗凝固系における正・負のフィードバック
- トロンビンやXa因子を阻害すると
- DOAC は血小板を強く凝集
- 非弁膜症性心房細動一般でも血栓リスクが
- Prescrire誌やISDBに働きかけます

キーワード: 抗リン脂質抗体症候群 (APS)、凝固系、抗凝固系、プロテインC系、フィードバック、血小板凝集

参考文献

- 1) Pengo V, Denas G, Zoppellaro G et al. [Rivaroxaban vs warfarin in high-risk patients with antiphospholipid syndrome](#). Blood. 2018 Sep 27;132(13):1365-1371. PMID:30002145
- 2) Sato T, Nakamura H, Fujieda Y et al. [Factor Xa inhibitors for preventing recurrent thrombosis in patients with antiphospholipid syndrome: a longitudinal cohort study](#). Lupus. 2019 Nov;28(13):1577-1582. PMID:31635559
- 3) Hirsh 著、大柴ら訳、絵でみる血栓・止血のメカニズム、医学書院 1986 年
- 4) Liu L. Protein C/S Deficiency <https://step1.medbullets.com/hematology/114066/protein-c-s-deficiency>
- 5) 堀田哲也, 小池隆夫, 抗リン脂質抗体症候群の病態と治療の最新の理解. 日内会誌 2008 : 97 : 1334-140.
- 6) Petzold T, Thienel M, Konrad I et al Oral thrombin inhibitor aggravates platelet adhesion and aggregation during arterial thrombosis. Sci Transl Med. 2016 Nov 30;8(367):367ra168. PMID: 27903864
- 7) 佐藤太貴, 加藤将, APS に対するリバーロキサバンとワルファリンの有効性比較, リウマチ科, 2019 : 61(4) : 396-399.
- 8) Selmi C, Santis M, Battezzati PM et al. Anti-phospholipid antibody prevalence and association with subclinical atherosclerosis and atherothrombosis in the general population. Int J Cardiol. 2020 Feb 1;300:209-213. PMID:31757648
- 9) Senst B, Tadi P, et al Hypercoagulability. StatPearls [Internet]. .2020 Jul 8.PMID:30855839
- 10) Sakata T, Okamoto A, Mannami T, et al Prevalence of protein S deficiency in the Japanese general population: the Suita Study. J Thromb Haemost. 2004. PMID:15140145

総説

2020年の年間テーマ：治療ガイドライン批判シリーズ（16）

パーキンソン病：早期の治療開始は認知症を招く

利益と害とのバランスで個別に選択を

薬のチェック編集委員会

まとめ

- 日本神経学会の2002年のパーキンソン病診療ガイドラインでは早期のパーキンソン病は、「日常生活に支障がなければ、そのまま観察してよい」とされていました。ところが、2018年のガイドラインは、「不利益に関するエビデンスがないため」「診断後できるだけ早期に治療」を推奨しています。
- しかし、早期に薬物治療を開始した群と遅く開始した群を比較した長期試験では、4年後の認知機能の低下が早期開始群は遅い開始群の1.6倍となっていました(統計学的に有意)。運動機能には差はありません。
- パーキンソン病は、興奮物質ドパミンが脳で炎症を起こし脳の黒質の神経細胞が脱落するため発症します。早期の薬物治療はドパミンの過剰によって炎症を増強させ、逆にパーキンソン病の悪化や認知機能の低下を招きます。
- 「診断後できるだけ早期に治療」との画一的な方針は不適切です。日常生活に支障がなければ経過観察としていた2002年ガイドラインのほうが適切です。個々の患者の日常生活などQOL（生の質）の低下と症状の進行具合とのバランスを考慮しながら、治療開始時期は個別に決定することを推奨します。

結論：画一的な「早期治療開始」は害がある。治療開始時期は害とのバランスで個別に選択を。

キーワード：ドパミン、Lドパ、黒質、認知障害、安静時振戦、筋強剛、筋固縮、姿勢反射障害

参考文献

- 1) 薬のチェックは命のチェック編集委員会、パーキンソン病とくすり、薬のチェックは命のチェック No40, 2010
- 2) 日本神経学会、パーキンソン病治療ガイドライン作小委員会、パーキンソン病治療ガイドライン2002、
- 3) 日本神経学会、パーキンソン病治療ガイドライン作小委員会、パーキンソン病治療ガイドライン2018
https://www.neurology-jp.org/guidelinem/parkinson_2018.html
- 4) 日本神経学会、パーキンソン病治療ガイドライン作小委員会、パーキンソン病治療ガイドライン2011
<https://www.neurology-jp.org/guidelinem/parkinson.html>
- 5) Asanuma M, Miyazaki I, Ogawa N. [Dopamine- or L-DOPA-induced neurotoxicity: the role of dopamine quinone formation and tyrosinase in a model of Parkinson's disease](#). Neurotox Res. 2003;5(3):165-76..PMID: 12835121
- 6) Lesser RP, Fahn S, Snider SR, Cote LJ, Isgreen WP, Barrett RE [Analysis of the clinical problems in parkinsonism and the complications of long-term levodopa therapy](#). Neurology. 1979 Sep;29 (9 Pt 1): 1253-60..PMID: 573405
- 7) Hald A, Lotharius J. [Oxidative stress and inflammation in Parkinson's disease: is there a causal link?](#) Exp Neurol. 2005 Jun;193(2):279-90. PMID: 15869932
- 8) 中島健二ほか、パーキンソン病の疫学、診断と治療 1999; 87(4): 563-564
- 9) Pollock M, Hornabrook RW The prevalence, natural history and dementia of Parkinson's disease. Brain. 1966 Sep;89(3):429-48. PMID: 5921126
- 10) Hely MA, Reid WG, Adena MA, Halliday GM, Morris JG. [The Sydney multicenter study of Parkinson's disease: the inevitability of dementia at 20 years](#). Mov Disord. 2008 Apr 30;23(6):837-44.. PMID: 18307261
- 11) Hely MA, Morris JG, Reid WG, O'Sullivan DJ, Williamson PM, Rail D, Broe GA, Margrie S.J [The Sydney Multicentre Study of Parkinson's disease: a randomised, prospective five year study comparing low dose bromocriptine with low dose levodopa-carbidopa](#). Neurol Neurosurg Psychiatry. 1994 Aug;57(8): 903-10..PMID: 8057111
- 12) 薬のチェック編集委員会、認知症ガイドラインは薬物偏重、薬のチェック 2019 : 19(82) : 34-39.
- 13) 同、Web 資料 https://www.npojip.org/chk_tip/No82-f05.pdf
- 14) Gray SL, Anderson ML, Dublin S et al. Cumulative use of strong anticholinergics and incident dementia: a prospective cohort study. JAMA Intern Med. 2015 Mar;175 (3) :401-7. PMID: 25621434

p140

患者用くすりの説明書

パーキンソン病用標準薬剤

本誌の評価：必須、推奨する

一般名（商品名）：レボドパ・カルビドパ配合錠（メネシット 100,250、ネオドパストンL 100,250）

パーキンソン病の薬物療法の基本

- ・薬物療法の基本は、日常生活に大きく支障がない程度に、脳内のドーパミン不足分を補うことです。
- ・あまり生活に困らないのに、早くから薬剤を補充すると、かえって効かなくなる時期や、ジスキネジアや認知症が早く現れやすくなりますので、あわてて開始することは薦めません。

p141

医薬品 危険性情報 あれこれ

厚生労働省が発行する医薬品・医療機器等安全性情報から紹介。コメント・註釈は本誌。

- ・異なるワクチンの接種間隔を緩和
- ・アミノ酸静注用製剤における禁忌の見直し
- ・インスリンバイアル製剤の過誤
- ・医療情報データベースを活用した小児臨床開発

p142

FORUM

Q

小学生のマスク着用は本当に必要？

広島市で有志のお母さんたちが、子どものマスク着用の解除を希望して、教育委員会に陳情書を提出されました。

A

夏季のマスクは不要だが、冬季には有効

マスクには、基本的に、外気が低温・乾燥時に鼻や喉を保温・加湿することで、侵入してきたウイルスが体内で増殖・感染しにくくする役割があります。

p142

書評

白い病

⋮

p143

FORUM

Q

検査で見つからない潜在がんとは？

91号の透析中の腎性貧血用剤「ロキサデスタット」の記事の108頁の最後の「実地臨床では」の項に「検査で見つからない潜在がんは、検査で見つかるがんよりも多いので、潜在がんがあれば、ロキサデスタットががんを大きくする可能性があります。」について質問です。

A

だれしも小さながんを持っている

少し説明不足でした。検査では見つからない小さながんを、多くの人は持っている、ということが、大前提です。

p143

医師国家試験に挑戦しよう (133頁) の正解と解説

p144

次号
予告

ガイドライン批判シリーズ (17)

睡眠障害

と

COVID-19 関連

を予定しています。

p144

編集後記

★昼夜を問わず、よく空を見上げる。十五夜のときはベランダから満々の満月と火星を眺め、翌日は夜明け前の沈みゆく大きな月を玄関先から見、ベランダにとってかえって太陽が昇るのを待った。その日は一日中、晴れやかな気分だった★学生時代に山岳部の合宿で登った立山でテントから見上げた星空に圧倒されたのがきっかけかもしれない★宇宙葬というのがあるらしい。でも、スペースデブリ（宇宙のゴミ）となって宇宙に迷惑をかけないのだろうか？（デブリ回収屋が主人公の「プラネテス」という漫画がある）★宇宙葬にもいろいろあるらしく、「遺灰を納めたカプセルを人工衛星で宇宙に送り、数か月から1年で人工衛星は大気圏に再突入し、流れ星となって燃え尽きる」という流れ星タイプならいいかな？★だが、だ。宇宙へ行けるのはほんの数グラムの遺灰！ しかも、衛星を打ち上げるエネルギーは温暖化に拍車をかける？ もっと調べてみよう。（さ）